

東浦中学校・東浦文化広場基本構想（案）への意見募集結果について

No.	意見等の要旨	パブリック・コメントの意見等	町の考え方
1	学校について	東浦町教育大綱より、ゆとりある環境と魅力ある教育環境を考えた時に、きまりきった教室・スペースをイメージするのではなく、オープン・スペースを持つようなものにしたい。そのスペースは固定ではなく、フレキシブルに稼働可能・可変可能な構造にしてほしい。また、学校施設部分においては、特に予算を多くとってほしい。 生徒数の減少を憂うよりは、増加する（移住したくなる魅力ある校舎を作ってほしい）施策を考える必要があるでしょう。森岡小学校においても同様な考え方で実施してほしい。	教室スペースの構造、大きさは基本計画で検討して行きますので、ご意見として参考にさせていただきます。予算については、整備についての全体予算になりますので、限りある予算の中で検討していきます。 校舎を含む施設の規模については、将来の人口推移を踏まえて検討していきますが、校舎については、今後の教育に必要とする適正規模を教育委員会と協議のうえ、実際に通う生徒やその保護者等の意見を踏まえて検討します。
2	跡地について	上記基本構想について、本町最大の構想ですが、知らない住民も多いと感じます。あらゆる機会（町長自ら各種会議・イベント等を介しての発信、町主管課も含め町全体として様々な機会を活用して）を通じて、更に広く住民にお知らせし、様々な意見・提案を集約してください。 中学校移転後の跡地への文化センターや図書館等を複合・集約化した全町拠点の配置について、同複合施設内に音響設備が整った音楽専用ホール（200人位収容の中ホール程度）の設置を強く要望いたします。音楽専用ホールでの東浦ミュージックフェスティバル、町内外各音楽団体や音楽家の演奏会・発表会等を通じて、老若男女が音楽に接する機会が更に増え、発表する子どもたちへの情操教育へも繋がり、また練習意欲を掻き立	現在、ホームページ、広報、町公式LINE、学校－保護者間連絡ツール「tetoru」、町長の挨拶等様々な機会を捉えて周知しています。今後基本計画の際にも、周知を図っていきます。 東浦町公共施設再配置計画において、東浦中学校跡地には、文化センターや図書館等を複合・集約化した施設を全町拠点として配置する方向性を示しています。本全町拠点の検討については、2029年度以降を検討時期としており、全町拠点に備える機能や諸室等の規模については、その際に検討するものとなります。なお、検討の際には、今回のご意見を踏まえて検討していきます。

	てられ、今後世界的な音楽家等が現れるかも知れません。 人口約5万人の我がまちにも、音楽専用ホールが設置されれば、文化・芸術に関する理解のある町として住民からも感謝されるとともに、町外からの移転に伴う人口増にも寄与する可能性もあると考えます。 音楽専用ホール設置後の課題として、ランニングコストが挙げられると思います。音楽専用ホールへのネーミングライツパートナーを募り、その費用を充てるなど、また住民からも持続可能なホールとしての提案等を募集することによって、おらが町の音楽ホールとの意識を強く持っていただけるものと考えます。行政だけに依存するのではなく、維持継続のための募金を行う等住民と一体となって考えることが重要だと思います。 最後に、カラオケにはじまり、合唱、キッズダンス、ミニバンド演奏、弾き語り、オーケストラ演奏などなど、音楽に触れると聴いている人達、演じる人達は一樣に明るく元気になると思います。住民が明るく元気になり、住民が明るく元気になると町自体も明るく、活気のある町にも繋がると考えます。 音楽専用ホール設置が「東浦町のアップデート」にも繋がり、まちづくりの一助になればと、考えますので、どうかよろしくお願いいたします。	
--	--	--

3	住民説明について	合理化するということは今までより余裕がなくなるということ。まずは関係者の不安を解きほぐし、前向きな空気感をつくることが重要ではないでしょうか。基本計画の前に施設を使う中学生や先生・体育館利用者、近隣の方はもちろん、町民が広く参加できるワークショップの開催をお願いしたいです。 複合施設は中間領域のつくり込みがキーと考えます。例えば、開いたり閉じたりして施設の距離感を調整できるフレキシブルで曖昧な中間領域にどんな付加価値を与えられるか？など、中間領域を考えることは複合することの意味を考えることにつながると思います。	基本構想の策定後、計画を進めるにあたっては、関係者及び近隣住民も含めた住民の皆様への説明会等の実施も検討していきます。
4	ホール機能の設置について	複合施設内に音楽専用ホール(中ホール程度)を希望します。考え方 文化センターで行われた東浦クラシックコンサートの演奏シフトが、あまりにも貧弱でした。知多地区のコンサートに良くいきますが、音響設備と客席が整備されたホールばかりです。演奏者があまりにもみじめです。他市町の人が見たらびっくりします。 吹奏楽の演奏会でも同様でした。東浦町は、世界で入賞したピアニストも輩出しています。文化意識の高い町です。今後もすばらしい才能をもった若人がたくさん現れるでしょう。 彼らが気持ちよく演奏でき、彼らを温かく応援できるホールを待ち望んでいます。 また、町内にもいろいろなサークルがあります。例えば於大祭り、芸能祭等で発表披露する場所となればモチベーションも	東浦中学校・東浦文化広場基本構想(案)では、主な機能を学校、総合体育館、防災、コミュニティ機能としています。 今後、基本計画では、必要な機能を精査する段階にありますので、今回のご意見も踏まえ検討します。 また、 ホール機能については、東浦町公共施設再配置計画において、東浦中学校跡地に文化センターや図書館等を複合・集約化した施設を全町拠点として配置する方向性を示しており、2029年度以降に検討する予定です。 全町拠点に備える機能や諸室等の規模については、その際に検討するものとなります。なお、検討の際には、今回のご意見を踏まえて検討していきます。

		一層上昇すると思います。老若男女みんな欲しています。 文化意識が上がることは町全体の意識向上という相乗効果をもたらすでしょう。 ぜひ、ご検討ください。	
5	整備手法について	官民連携方式を前提に検討するとしているが、本当に官民連携方式が今回のプロジェクトにおいて妥当かどうか検討すべき 【提案内容】 1. プロジェクト実施方式の官民連携型方式(例 PF1、DB0)は時代遅れになりつつある。 2. 今回のプロジェクトでは、主に設計や施工の場面で民間知識や技術が活用できるため、設計施工一括発注方式が望ましいと思われる。 3. 品質を保ちつつ安価に、かつ、東浦町の意見を取り入れながらプロジェクトを進められるのは、【基本設計】+【設計施工一括発注方式(実以降)】が考えられる。 4. 建築技術職が不足するなら、一時的に建築技術職員を増やす方法(期限付職員の採用、CMr 借上委託など)を取り入れる。 【提案内容の説明】 1. について VFM の数値を良く見せるため、設計建設費が 10%、運営費が 5%削減できるとしているが実情に合っていない。(内閣府の数字をそのまま採用しているだけ。) VFM の数値を良く見せるため、割引率を過去の数値から算出	本整備における整備手法については、基本計画以降の段階で検討します。実際に検討する際には、今回のご意見も踏まえ、費用対効果等を加味しながら適切な手法を検討します。検討の結果、官民連携がふさわしくないと判断した場合には、従来方式での整備を検討します。

	しているが、実際は未来の数値を予測し設定すべきであるが、わからないなら 0%として設定するのが無難である。 今回のプロジェクト規模だと、アドバイザー経費(1 億円)、SPC 経費(1 億円)、民間金利(1 億円)、リスク引当経費(1 億円)など、実際に形に残らない経費がかさみすぎる。つまり無駄経費が多く、税金の無駄遣い。 2. について 学校は直営で運営、文化施設は文化芸術系組織と東浦町が共同運営をすると効率的かつ効果的と考えられる。そのため、設計施工の部分に的をしぼり民間の技術知識を取り入れることが合理的と考えられる。 なお、文化芸術系組織の意見も合理的範囲で取り入れると共同運営する際に、お互い協力的に運営できると思われる。 3. 東浦町が主体となりプロジェクトを進めるために基本設計は他の業務と切り離れた方がよい。そして、基本設計は東浦町が考える子供のために真に必要な内容とし、無駄がなく合理的な計画とすべき。この無駄がなく合理的な計画こそが、建設費の削減、運営管理費の削減につながる。 4. 建築系技術職員の数が不足していたり、経験が不足しているならば、その部分をアウトソーシングで補えば良い。すべてのことを内部職員で対応は無理で、一時的に必要なならば十分な技術や経験を有する技術者をアウトソーシングできる時代になっている。	
--	--	--

		官民連携方式がすべての課題を解決してくれるわけではないと考えます。 多くのプロジェクト実施方式があり、それぞれの特徴があります。 今回のプロジェクトに最適な方法をご検討いただければ、また私の提案も参考にいただければ幸いです。	
6	拠点整備について	【はじめに】 今回の中学校移転および文化施設の整備について、私は現・体育館の敷地への複合化案に賛成します。 町の北側（役場・図書館など）に公共施設が集中しているため、**日常的に気軽に行ける“ひらかれた場”**が継続して現敷地にできることを歓迎します。 今も文化広場は存在していますが、施設の老朽化もあり、もし新しく整備されるなら、「より日常に根ざした文化施設」として生まれ変わることを願っています。 文化施設が新しくなることは、まちの暮らし方そのものを見直すきっかけにもなると思い、以下の点を意見として提出いたします。 【1】世代をこえて利用しやすい「居場所」へ 子どもから大人まで、さまざまな人が気軽に過ごせる、地域の“ひらかれた場”になることを願っています。 たとえば、 子連れでも利用しやすい配慮（遊び場やおむつ替えスペースなど）	東浦町公共施設再配置計画では、複合化・集約化の効果として多世代交流や施設間連携による共同事業など、様々な相乗効果を挙げており、本施設整備においても、多世代交流を視野に誰でも使いやすい施設を目指して検討していきます。

		自習やちょっとした作業ができるテーブルやフリーWi-Fi 一人でも立ち寄りやすい、入りやすい雰囲気づくり など、用途にしばられず心地よく過ごせる空間があれば、文化 広場が「地域の日常の中にある場所」として根づいていくの ではないかと思います。	
7	拠点整備につ いて	【2】学びや表現、活動の拠点に 地域で何かを始めたい人、学びたい人が使えるような施設にな ると、町全体に活気が生まれると感じています。 特に、現在のコミュニティセンターでは対応が難しいよう な、創作や表現活動に適した設備が整うと、利用の幅が広がる のではないかと思います。 創作活動に使える工作室などのスペース 音の出る活動に対応した防音室や練習室（太鼓や楽器など） 子どもが長期休みに勉強できるようなスペース 音については、活動する方にとってのびのびと表現できる環 境が必要である一方で、周囲の環境への配慮も大切だと感じて います。 わたし自身も、まちに引っ越してきて初めて経験したのです が、秋のお祭りの時期には、連日夜に太鼓の練習音が響いてく ることがあります。 地域の伝統行事として大切なものであることは承知しつつも、 聴覚過敏の子どもにとってはつらい日もありました。 現実的に、町が管理している行事ではなく神社の主催行事で	今後基本計画等の検討時には、住民ワークショップ等を通 して、施設の使い方等を皆さんと共に検討していく予定で す。また、周囲の環境につきましても考慮したうえで施設整 備の検討をします。

		あるため、太鼓などをすべて屋内の練習スペースに移動することは難しいかもしれません。 ですが、防音に配慮された練習スペースが整備されることで、表現活動を安心して行える環境が広がり、伝統や文化を大切にしながらも、地域全体の暮らしやすさにつながるのではと考えています。	
8	ふれあい教室について	【3】学校に通いづらい子どもたちの「居場所」としての文化施設 今回の計画にあたり、ふれあい教室（適応指導教室）の今後についても気になっています。 我が家でも、子どもが不登校になった際にふれあい教室に通えたことは、大きな支えになりました。 小学校1年生から中学校3年生まで、幅広く受け入れてくれる場所としてふれあい教室が存続してくれることを願っています。 全国的にも不登校の子どもが増えており、学年にかかわらず、学校に行けない状況は誰にでも起こりうると感じています。 一方で、学校と同じ敷地内にその場があるとなると、“学校とつながっている感じ”が強まり、安心して通いづらくなることもあるかもしれません。 たとえば、入口を分ける、動線を工夫するなどの配慮があると、より安心して通える子が増えるのではないかと思います。	ふれあい教室の機能については、東浦町公共施設再配置計画において、全町拠点として位置付けており、現東浦中学校及び周辺敷地に整備する方向性としてしています。なお、全町拠点整備までの期間における運用等については、今回いただいたご意見等も踏まえ今後検討していきます。

		(実際に、学校の別室登校の際にも、みんなの目に触れる場所を通るのがしんどくて、職員室側の玄関を使わせてもらったことがあります。) 【おわりに】 今回の整備が、東浦町の魅力をさらに高め、誰もが安心して過ごせるまちづくりの一步になることを願っています。 公共施設が「一部の人のもの」ではなく、**「暮らしの延長として、誰もがふらっと立ち寄れる場」**として再設計されることを、心から応援しています。	
9	基本構想について	1. 将来の東浦町の基本構想を絵図で示してほしい。 当基本構想はある意味将来の東浦町を描くものであると理解します。であるならモデル事業として描く中学校と文化広場(文化的活動を行う建物・施設)の構想図(想像図)があってしかるべきではないか。子ども中心の将来構想であろうから小中学生にも理解できる、もちろん大人も将来とも東浦町に住み続けたいと思える、また他地域の方々にも移り住みたいと思ってもらえる内容(構想)を図・絵にしてほしい。 基本構想だからこそ描ける手法で描くべきと考えます。	整備に関する建物の絵やイメージ図については、基本計画にて、導入機能や施設の配置等が決定したうえで作成し、掲載を予定しています。 皆様にご覧いただき、理解していただける構成に心がけて進めていきます。
10	防災について	2. 安全・安心なまちづくりに寄与・発展する内容を。 この基本構想から、東浦町が自然災害に対して防災・減災機能が展開されていく、ということを示唆する内容であってほしい。単に東浦中学校と隣接する?文化広場、建造物の防災・減災機能内容の説明だけでなく。	本構想(案)における第4章2 施設の基本的な考え方 で(2)災害への対応能力の向上の考えを記載しております。現在も体育館が指定避難所として位置付けられていることから、今後も防災力の向上念頭に、詳細な計画を検討していきます。

11	ホール機能の設置について	3. 文化広場・建造物のコンセプトは本物志向で。 現在、東浦町には本物の「文化センター」は無い、と思っています。本物志向の文化センター（ミュウジックコンサートホール、観劇劇場、等）が是非必要と考えます。 「心豊かな人を育てる町」となるための施設が欲しいのです。世界に名だたるピアニストを配する東浦町なればこそその施設（音響効果の高い施設）を建設されたい。また、同施設は和洋の両観劇施設としても有用な施設を建設されたい。かつて、「いいホールが欲しいなら近隣市町のホールを借りて演ずればよい」といった愚言を発したトップがみえました。この発想は絶対捨ててください。	東浦中学校・東浦文化広場基本構想（案）では、主な機能を学校、総合体育館、防災、コミュニティ機能としています。 今後、基本計画の段階では、必要な機能を精査する段階にありますので、今回のご意見も踏まえ検討します。 なお、ホール機能に関しては、東浦町公共施設再配置計画において、東浦中学校跡地に、文化センターや図書館等を複合・集約化した施設を全町拠点として配置する方向性を示しています。本全町拠点の検討については、2029年度以降を検討時期としており、全町拠点に備える機能や諸室等の規模については、その際に今回のご意見を踏まえて検討するものとなります。
12	住民説明について	4. 新たな「パブコメ」手法を。 将来の公共施設のあり方・まちづくりの方向を示唆するモデルとしての「東浦中学校・東浦文化広場基本構想」であるこの企画は従来にもまして重要なものと考えます。ゆえに、広く住民の評価や意見を聴取することも必要であると考えます。通常の「パブコメ」だけでなく、町内各區で「構想説明会」をやってみんなで公共施設づくり、配置づくり＝まちづくり、をしてほしい。 行政・住民（民間）・専門家が議論しあうことも是非必要ではないか。日高町長の東浦町の将来への熱い胸の内をお聞きしたい。 かつて、行政サイドの方々に、「好き勝手なことばかり言う住民に付き合ってもらえない、面倒くさい」といった意味合いの	基本構想の策定後、計画を進めるにあたっては、関係者及び近隣住民も含めた住民の皆様への説明会等の実施も検討していきます。

		言を発せられた方がみえました。今はいないとは思いますが。	
--	--	------------------------------	--